

# 元気の源 会計事務所

## 大石豊司社長に聞く

### 総局長がゆく④



「こんにちは。いらっしゃいませ」。JR国立駅南口のオフィスビル2階にある税理士法人「大石会計事務所」に足を踏み入ると、社員全員が立ち上がりて出迎えてくれる。会計事務所とはいえ、お堅いイメージがつきまとうが、あまりのギャップに一瞬戸惑いを覚えるくらいだ。「中小企業を元気にしたい」というのが代表社員税理士、いわゆる社長を務める大石豊司氏(50)の運営理念だ。経済の先行きが見えにくい時代に、少しでも明るくなるヒントが見つからないかと、大石氏に話を聞いてみた。

【聞き手・毎日新聞多摩総局長、河嶋浩司】

おおいし・とよじ 1959年、山梨県生まれ。大学卒業後、山梨中央銀行勤務を経て、89年大石会計事務所開業。著書に「あなたの会社を伸ばす100の条件 経営以前の社長の教科書」、「目覚めなさい! まだまだ伸びるあなたの会社」VOL1~3。妻と1男、1女の4人家族。

### 中小企業の模範に

ホームページに掲載している社長のコラムをまとめた「経営以前の社長の教科書」を出版されています。税理士でありながら税務の話は行もななく、経営の心構えを説いて、かなり型破りの面白い銀行勤務を3年間経験しました。それから

会計事務所に転職したら、まるで違う世界だった。誰かが訪ねて来ても関係者が立ちあがって、ほかの人は仕事をしたまま。これは違うんじゃないかなと疑問に思った。お客様が列をなした



かわしま・ひろし 1961年、福井県生まれ。90年毎日新聞社入社。静岡支局を振り出しに、95年から東京本社社会部。警視庁キャップなどをを経て09年4月から多摩総局長。

### 地元で消費し合う

最近の円高など多摩地区の中小企業の景気状況は厳しいものがあります。いろいろな相談を受ける中で、景気回復のヒントみたいなのは見えますか。地元商店街の活性化に向けた取り組みはどのくらいありますか。どうしたらお客様に来ていただけるかが議論の中心ですが、じゃあ、地元商店街の人たちが地元を利用しているのかというところ、大型スーパーに行ったりしていませんか。みなさんに来てほしいと言っているが、自分たちは使っていない。多少高くても地元で消費し合えばどうでしょうか。公式な会場ではありませんが、3割は売り上げは増えているんですよ。取り組みへの矛盾というか本気度が問題になる。総論賛成、各論反対というところ、もっと本音で議論すれば面白いことができるんじゃないでしょうか。公式な会場ではありませんが、改革が必要なんです。

### 若手発の異業種交流

事務所主催の異業種交流会に取り組みています。新規の顧客獲得の狙いもあると思いますが、活性化の手助けをしようという意図も浮かぶ。まだ3回目ですからこれからということですね。若い社員の提案で始まったことですが、案外集まってきて



新たなビジネスチャンスも。事務所で開催された異業種交流会の様子—大石会計事務所提供

「社長の教科書」では中小企業の社長はこうあるべきだなどとメッセージ性が強い。経営者に大切なことは大きく二つあると思えます。一つは情熱です。どんな知識があり、スキルがあるが情熱がなければ経営は続けられないし、人はついてこず、これが最大の仕事です。

### 情熱とビジョン

「情熱とビジョン」お会いした経営者の中で、情熱がなくてうまくいった人は一人も見たことないです。もう一つは「ビジョン」。5年後、10年後はどうありたいのか。そしてそのイメージをうまく周囲に伝えられるかどうかです。自分がイメージできないものは実現するわけがないから、それがすごく大切だと思います。今年をどうするかを考えると、一歩目をどう踏み出すかを考えることです。ただ毎日の頑張れと社員の尻をたたくばかりじゃなく、景気の影響を正面から受けることはあります。でも町の飲食店と



社員によるボランティアのごみ拾い—同

### 地域のためごみ拾い

社員のみなさんがボランティア活動をされています。これがまったく自発的なんです。私が全く知らないところで勝手に始めて、3年目に手に入ります。毎週1回水曜日に国立駅前のごみ拾いをやっています。これも誰かのために、地域のためにという動機付けで始めたこと、それがすごくうれいです。私は後から仲間に入ってもいい。今年の猛暑の中も朝8時から、30~40分のごみ拾いで汗だくになります。冬は寒い中、缶とかびんとか水で洗って冷たいです。私の指示ならやっくらんねえよとなると思いますよ。

来年度の新社採用の募集を出したところ、何十人も応募があった。税理士を目指すのではなく、就職先として考えて来た人ばかりで、大石社長は「みなさん優秀な方ばかり。今の就職状況の厳しさを痛感した」と嘆く。

ちょっと変わった税理士さんだが、「中小企業のみならず頑張りしてほしい」という情熱が行動力を支える。「大学生が内定をもらえず、へこんでへこまされて。こんな世の中は間違っている」と憤る。「そのために、地域が、中小企業が生きてきた社会じゃなければならぬ」とも。自著「社長の教科書」の理想を自ら示している。